

船災一名：外全滅

以上記す如く僅かに半歳の間、理由不比のため洋上にてその
踪影を失ひ或は波ありのため艀覆沈没したるもの、現わらぬ
その果々くは學ある風濤の衝動により凡そ崩解体せるもの
認められ憐れむべし全船員の約難せざるもの、実に400イ
サン丸、長幸丸、広栄丸、松山丸、萬盛瑞丸の五隻を数
回より波を難破したるもの、幸い船員の救済小なるもの
に苦味丸を見出すべく、その他は皆未だ急激な風浪の
激襲感に堪えずに船が不能に陥り三千イを救助所なし
萬石の程「一便」あるより、その噸數を併せて三萬噸を
超ゆ、之を後半半年に噸數を加算するべく、たとひ假定中實に理
由不比の難破のみならず、數次噸數六萬噸に達すること
指すべく、かくて萬幸なき船員は海運の妨げなり、

の犠牲とあつて風濤の裡に生かす生命もなきもの、
船の難破の代りに於て海運の妨げに對し海人の準備
と對策の構えも、多量に難破船の救助に當るべく、之を
業中にも海運の面から、海運の恐慌に代り、遠くは優
新建造の船を呼出し、内河も大船も、自己現在に利便
ある種々な船を呼出し、之を難破船に代り、政府の補助
金に於て、之の目的を達成せしむる日本海運業者
の短見と卑しき指彈之とするに際し、更らに擴充し、
現在在りたる老朽船舶が新船に代り、不比の難破に
より相違して、水も、ある事業にわけて、船小さうとし
結果も、多量に船中の支費を括むる船舶定期検査
の者も、金を既に政府に前取済するにせしむると、
かく、於茲に海運は、新船業者が、自ら自見を、